

令和6年

第2回教育委員会会議録

(開会 令和6年2月15日)

(閉会 令和6年2月15日)

岐阜県可児市教育委員会

令和6年2月15日午前9時00分開会

会場：市役所4階第3会議室

出席委員

堀部好彦君（教育長）

伊藤小百合君（教育委員）

小栗照代君（教育委員）

長井知子君（教育委員）

梶田知靖君（教育委員）

説明のために出席した者

飯田晋司君（事務局長）

佐野政紀君（学校教育課長）

上北泰久君（学校教育課主任指導主事）

真野純次君（学校教育課指導主事）

木村千恵君（学校教育課学校支援係）

石丸 聡君（子育て支援課子育て応援係長）

水野 修君（教育総務課長）

水野伸治君（学校給食センター所長）

三宅愛彦君（教育研究所主任指導主事）

福田真弓君（学校教育課学校支援係長）

牛江明美君（子育て支援課専門対策監）

出席委員会事務局職員

木村雄大君（教育総務課総務係長）

小池拓哉君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 前回、前々回会議録の承認

3 教育長報告

4 教育委員報告

5 議 事

①議案第2号 教育に関する予算の意見について（令和6年度可見市一般会計予算）（原案可決）

②議案第3号 教育に関する予算の意見について（令和5年度可見市一般会計補正予算（第11号））（原案可決）

③議案第4号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）

6 報告事項

・いじめ相談受付状況について

7 各課所管事項

8 委員からの提案協議事項

9 その他

10 閉 会

開会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、これから令和 6 年第 2 回の教育委員会会議を開催させていただきます。

定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということによりまして、よろしくお願いいたします。

前回、前々回会議録の承認

- **教育長（堀部好彦君）** 前回、前々回の会議録の承認について。
- **教育総務課長（水野 修君）** 前回、前々回の会議録に変更はございません。よろしくお願いいたします。
- **教育長（堀部好彦君）** 変更はなしということで、よろしくお願いいたします。

教育長報告

- **教育長（堀部好彦君）** 教育長報告でございますが、3 点お願いをします。

1 点目ですが、1 月 27 日、特別支援の作品展及び小・中学校の美術展が a 1 a で開かれました。私もざっと見せていただきました。今年は、これは地域の方たちにも実際に久しぶりに公開ということを知っていますけれども、広い会場を幾つも使って、市内 8,000 人の子供たちの代表の作品ということで、力作ぞろいで、美術の作品及び特別支援学級の子たちの様々な作品が展示されておりました。

偶然ですが、教育事務所の教育支援課長とお会いをしまして、向こうからいろいろ話をしてくださりました。話の内容は、可児市の特別支援も含めたこの美術展、すごいですねえということです。教育支援課長は御専門が美術です。そういったこともあって、興味を持たれて来てくださっているんだと思っていますけれども、この近辺の市町村を見渡したときに、このような規模で、このような高い作品の質で作品展が行われたところはないですよというお話でした。大変ありがたいお話でうれしかったです。

この運営については、各校の作品展の御担当の先生方、もちろん中心は研究所の担当主事なんですけれども、会場の準備、展示等、大変なお仕事なんですけれども、出張で来ていただいてやってくさっています。そういった方々のお働きもあるし、そして何よりも日々の美術等の授業できちっと指導がなされている、そういったことのあかしでもあるなあということも思って、いろんうれしい思いになりましたので、1 点報告をさせていただきます。

それから 2 点目ですが、教育委員の視察研修につきまして簡単にお話をさせていただきます。いいなあというふうに思います。

2 月 8 日、西濃学園に行っていました。印象に残っていることいろいろあるんですけども、また後で長井委員がいろいろ話をしていただけるのではないかなあというふうに思っています。私からは、例えば理事長 北浦先生の言葉がとても印象に残っています。北浦さんいわく、私が高校教諭時代から願ってきたこと、今の西濃学園でも願っていること、それは子供たちの自立であると。その自立は、私の言葉で言えば、つまり北浦理事長が言われる自立というのは、自分の力で飯が食える、これが自立なんだ

と。それを目指した取組ということで、私は教育に携わる者としての覚悟を感じる、そんな重い言葉だなあとということを思っています。

この言葉は、何も不登校対策、不登校を抱えた子供たちに対する言葉だけではなく、これは通常の学級に通っている、学校に通っている子供たちに対しても、私たちは心していかなくちやいけない言葉ではないかなあと。毎日毎日の指導の中で何を願っているのかという、自分の力で飯が食えるという、そこを願うべきではないかなあ、そういう覚悟を私たちは持つべきではないかなあというふうに思いました。理事長の言葉で言えば、この自立は今言ったような言葉、私たちはいつも言っている未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」を育む、これが自立に向けた私たちの取組なんでしょうね。そんなことを一番強く思ったので、報告をさせていただきました。

また、当日頂きました資料等も配付されているかと思しますので、それぞれまた見ていただけると大変ありがたいなというふうに思っています。これが2点目です。

3点目ですが、能登半島地震に関わる話を本日もさせていただきたいなあとというふうに思っています。

前回もお話をさせていただきましたが、可児市の職員の派遣がずうっと続いています。昨日だったかな、掲示板を見せてもらおうと、さらに2名の職員の派遣の募集がありました。避難所の支援ということです。ということで、可児市はこの復旧・復興に向けて支援を続けているということでございます。私たちも、まずは一市民としてこの地震に関して、この大災害に関して見続けていくことはとても大切だなあ、支援を自分のできる範囲でやっていくということがとても大切だなあというふうに思うと同時に、教育に携わる者として、この能登半島地震をどう見ていくのかということを考えていなあと。

テレビ・新聞等では、子供たちのことで心のケアというようなことが盛んに言われています。加えて私紹介をさせていただきたいのは、「亡き友自慢の町 復興誓う」と銘打った新聞記事でございます。

石川県能登町の松波中学校の生徒で、1年生の子が自宅の倒壊で亡くなってしまった。この子は、数年前にここに金沢から引っ越してきて、作文コンクールで優秀賞を受賞していた。本来は2年生を対象とした、想定したコンクールだそうですけれども、どうしてもこの子は書きたいということで1年生の時に書いたそうです。そして優秀賞。何を書いたのか。

僕は、もともと金沢の都会に住んでいて、8年前、能登町に移住してきました。そう始まる作文、人口を増やすため、町の魅力を自然体験などを通じ伝えることが大事だと訴え、皆さんで能登町をさらに自慢できるような町にしていきましょうと結んでいた。この作文を書いた子が亡くなった。その学校の校長、定年を迎える校長ですね、60歳と書いてあります。その校長先生は、この子が自分なりに真剣に町のことを考えていたことを伝えながら、復興の日を信じて頑張っていきたいということを誓っておられた。きっとこういった思いは、生徒たちにも伝えられているんだろうなあとというふうに思っています。

私たちも、ふるさと教育というのを教育振興基本計画に4つ目の大きな目標として位置づけております。私たちが目指しているこのふるさと教育と、能登地震で大きな災害で被災をされた方々、学校が目指しているふるさと教育と同じではないんだろうな。私

たちも頑張っている。今、このふるさとを失ってしまった、この学校が、復旧・復興を通して何を子供たちに伝えようとしているのだろうかという視点で、私はこの能登半島の方々、学校の動きを見ていきたいなあというふうに思っています。

もう一つ新聞記事の紹介ですが、山形大学の吉田先生という方が学校運営について語っておられます。心の傷を癒やすということが当然大切なんですけれども、それとはまた別の視点でということなんです、この吉田先生は福島県浪江町出身の方で、東日本大震災で学校を復興させていった教育関係者の教育課程編成に係る考え方や取組をいろいろ調査しておられる方。その方が、今回の地震で輪島市などが集団避難をさせていましたよね、子供たちを。そういったふるさとを失った子供たちにどんな教育が大切なんだろうかという視点で、浪江町の実践を踏まえた提言をしておられるということです。

どんな提言かというと、福島・浪江町が復興の段階でやっておられた授業は、郷土の伝統文化などを学ぶ「ふるさとなみえ科」という教科、学習を立ち上げた。何が学習教材になっているかということ、原発による放射能の影響でということ、浪江町の方々も戻ってくるかどうか分からないというような状況で、そういった危機感の中で故郷を、ふるさとを復興しようとする大人たちを教材に、子供たちに自分たちのルーツを確立してもらいたいといった教員の願い、ふるさとがあるということは、自分のルーツが、基盤があるということですからね。それをつくってあげたいというような気持ちで、このふるさとなみえ科ということ立ち上げた。発案した当時の校長は、震災後の教育が震災の前と同じでよいのかという考え方、今の子供たちに必要なことは何かを問い続けて、この科目が設定された。今この浪江小における教育実践の中核となったんだというお話で、私は大変印象深くこの記事を読ませていただきました。

そういった分析をされている吉田先生が、輪島市などで避難をしている学校にどんな教育が必要のかなというふうにしたときに、ふるさとなみえ科は、不確定な時代を生きる子供らに自身のルーツとなる原風景をつくることに力点を置いている。この能登半島でも、そうしたルーツを意識できるような学習内容が今後大切になってくるのではないかと語っておられたと。まだ復旧がやっと始まったかなという状況で、教育についてのこの提言、これは復興に当たるところではないかなあということも思うんですけれども、私たちはそういった被災地へのまなざしの中に、教育に携わる者としてどうあるべきなのかということを考えることも大切ではないかなあというふうに思います。

ふるさと教育が、教育振興基本計画の私たちの計画の4つ目に位置づいています。その中に「可児市のじまんとはこり」というこの冊子がありますよね。これを活用した教育が望まれているわけですが、今、能登の地では、この自慢と誇りが地震により影響を受けていると思います。そこから何を、どんな教育を立ち上げようかとされているのか。これを私たちはずうっと注視し、参考になることがきっとあると思います。まず思うのは、私はさっきも言葉を使ったんだけど、覚悟だと思います。覚悟が違うような気がします。私たちも、その覚悟に学んで可児市を背負って立つ、地域を背負って立つ子供たちを育てていくという思いを新たにしたいなあということも思っています。

ということで今後も、繰り返しになりますが、能登半島地震、被災地の復旧・復興における教育の取組、営みを見続けていきたいなあというふうに思っています。また皆さんの視点で、そんなことに触れていただけるようなことがあればよろしく願いをしま

す。

私からは以上でございます。

教育委員報告

○ **教育長（堀部好彦君）** それでは、教育委員報告に入りたいと思います。

○ **教育委員（長井知子君）** おはようございます。よろしくお願いします。

報告としては、教育長と同じく2月8日に西濃学園のほうに研修に行ってきました。そこで印象に残ったのは、教育長と同じく、子供たちが社会に出たときに心身ともに自立した子供たちに育てたい、育てるという強い思いが物すごく伝わってきました。

ちょっと違いますけれども、春に学校訪問で今渡北小学校に行ったときに、そこで教頭先生が言われたのが、外国籍の子たちに対してのそういう思いを伝えられたんですけども、社会に出て税金を納められるような子供たちに育てたいということと言われていたのが、そこにつながりました。やはり先生方や教育に携わる先生方たちは、その場の教育だけでなく、その先を通して子供たちをどんなふう育てたいか、社会にどんな子にして育てたいかというのを考えて接しておられているなというのを思いました。西濃学園の校長先生には、可児市のスマイリングルームがすごくとてもいいですと褒めていただきました。これからもスマイリングルームがどんどん広がっていくと思いますけれども、やはりさすがだなと思いました。

それでもう一点は、秋に行った教育委員の大会、a1aで行われたものなんですが、そこでも不登校対策の会に参加させていただいたときに、そこにいらした先生方が、各市町村、不登校の子供たちに対しての施設というものはあって、やっているんだけど、悩みとしては、子供たちがそこにいるときはいいんだけど、そこを出たときにどうしても把握ができない。そこが課題であり、そこを何とかしたいという思いがあります。皆さん、そこら辺どうされていますかというのを問いかけされていたんですけども、そういった意味では、西濃学園は私立の学校なので、全くスタイルが違うんですけども、中・高6年間を通して見られるというのは、この学校の強みだなというのを思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

社会に出てからのことまで考えた指導を、私たち義務教育の小・中の段階でどこまでやれるのかということ、先ほども私も覚悟というところを言葉で触れたんですけども、そこを言っているのが、いつも言っている「笑顔の“もと”」に枕言葉がありますよということなんですよね。それをまず再確認したいなということを経済委員のお話から改めて思ったことと、それからスマイリングルームの取組を大変褒めていただきました。事前に、担当主事がこういった中身で今私たちは不登校対策を頑張っていますということをお伝えしてあったんです。それをきちっと読んでいただいた上でお話をさせていただきました。ということで、私たちがこれまでやってきたこと、それからこれからやろうとしていることについて、後押しをしていただけるようなお話だったなあとというふうに思いました。

それと、長井委員がいろいろ質問をされたと思います。母親目線だなあとと思うところもあったんですが、その辺でちょっと寄宿舎のことだとか、食事のことだとか、そこも

ちょっと紹介してください。

- **教育委員（長井知子君）** はい。最初に行った中学校ですね。
- **教育長（堀部好彦君）** そうですね。
- **教育委員（長井知子君）** 中学校に行ったんですけれど、まず部屋が子供たちの寮の部屋が3階でしたかね。
- **教育長（堀部好彦君）** 校舎の3階に。
- **教育委員（長井知子君）** 教室をパーティションで区切って、そこで各部屋3人ぐらいかな、寝泊まりをしているという感じでした。お風呂は、すごいなと思ったのが、学校なのでお風呂はどこにあるんだろうと思ってお聞きしたら、その町のバスを使って、近くに道の駅があるので、そこのお風呂にいつも連れていっていますということ。町全体ですごくその学校を支援しているなというのが伝わってきました。

あと、洗濯物もどうしているんだろうと思ったら、校舎の外の踊り場ですかね、その通路のところにも3つぐらいあって、その近くには洗剤が山積みになっていたの、子供たちがいつもそこでやっているんだなあと。中には、洗濯物が入って、まだ干せていない状態もあったんですけれど、干せていることがすごいし、干せていなくても、それが普通の子供なので、やれている子はすごいなあとと思いました。

食事は、鐘が鳴ったらば一っと子供が1人来た子がいて、ああやっぱり御飯は楽しみなんだなあと。どなたが作っているんですかとお聞きしたら、シルバーさんが来てくださって作っているということと、あと理事長先生の奥様も一緒になって料理を作られていて、とにかく校長先生もそうですけれど、理事長先生の思いがすごく伝わってきて、改めて思いましたけれど、思いというのは実現、やっぱり思いがあると周りが協力してくれたりだとか、それに対してのパワーや巻き込み力がやはりあるんだなあとこののを、それは生きていく上で、大人だけでなく、やっぱり子供も何か伝えていきたいなあとこのころを思いました。

あと、やっぱり校長先生がとてもいい方というか、やっぱりお人柄でいろんな先生とのつながりがあって、あそこにいらっしゃる先生方もそういったつながり方からやっぱりいらっしゃるだったので、改めて人というものは、やっぱり大人になっても徳を積んだりだとか、校長先生の人徳だなどこののをすごく思いました。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** 本当にそうですね。

今、長井委員のお話をお伺いして改めて思ったんだけど、理事長さんと校長先生の志ですね。そこに大変心を動かされました。志を持って生きていくということは、私は幸せに生きていく上でとても大切ではないかなあとと思うし、教育委員の皆さんもそれぞれ志を持っておられるのではないかなあとこのように思っているんですけれども、そういうことも感じましたし、あと、あそこは私たちにはできないことの一つに、寄宿舎があって24時間面倒を見ている。生活を変えることが自立の基盤であるということで、そこまでやっておられること、だから夜も面倒を見ておられる方がいらっしゃるわけだよね。そこら辺りも、本当になるほどなあとこのことも思わせていただきました。大変具体的なお話ありがとうございました。

- **教育委員（伊藤小百合君）** おはようございます。よろしく願いいたします。

1月27日に、教育長と同じく特別支援学級と小・中の美術展を見せていただきました。

久しぶりに見せていただきまして、作品を見ていると本当に子供たちが集中して取り組んでいる姿が思い浮かばれて、みんなそれぞれの思いが伝わってくるような感じを受けました。

また、いつも学校ごとに展示されているんですけれども、ちょっと気のせいなのかもしれないんですけど、特に中学校で、色のついた台紙に作品を載せてあったんですけど、それが学校ごとに今回分かれていたような気がして、いつもきちんと学校ごとに展示をされているんですが、今年、台に置いてあるやつがそういう感じを受けて、とても見やすかった印象があって、すごくよかったなというのを感じました。

あと、特別支援のほうの作品で、たしか土田小学校だったと思うんですけれども、習字の墨汁を使って垂らすというか、それでいろいろ表現する作品が何点か出ていたんですけど、それぞれ自分の落とした表現している作品にタイトルがついているんですけど、何かあれがとてもそれぞれの個性というか、感じがすごく印象に残ってしまっていて、こういう美術というか、こういう授業の内容というのもとてもいいなあというのを感じました。

あと、以前梶田委員が言われていたと思うんですけれども、今渡南小学校のホタルの幼虫の授業が終わるといってお話があったと思います。たまたまケーブルテレビのニュースで見まして、30年にわたってこの授業を、地域の方たちの高齢化だったりとか、いろいろな事情で終了するというのをやってみえたんですけれども、私も数回御招待いただいて、幼虫を放流させていただいたときがあったんですけれども、とてもいい授業というか、特徴的な行事だったので、できれば継続していただけたらなあと思うんですけれども、ちょっとそれも難しいということでした。しかし、子供たちもお話ししていましたけれども、今までにやってきたことを次の学年学年に引き継いで知らせていくということをやっていたので、ぜひ継続してそういうことをやらせてほしいなというのを感じました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

今の今渡南小学校のホタルの授業につきましては、後ほど事務局長等からの報告があるかと思いますが、今大変分かりやすくお話をさせていただいたので、大体分かっていたのではないかなと思いますけれども、あともう一つ、美術展について大変細かい視点で見ていただいてありがとうございます。

私が若かった頃の20代、30代で、小学校だと美術も教えていましたけど、その頃に比べて、今時間数が少なくなっているんですよ。そういった中で、子供たちが自分の表現したいものを持って、それを表現していく、その喜びを味わっていく、その営みというのは本当に大切なことで、個性の伸長というところ、先ほど伊藤委員も言っておられましたけれども、そういった点でも美術展の値打ちというのはいろいろ感じるころが私もあります。ありがとうございました。

○ **教育委員（梶田知靖君）** おはようございます。

私の教育委員としての活動は特にありませんでした。

今月、自分の担当校さんではないんですけど、桜ヶ丘小学校、東可児中学校、それから西可児中学校、旭小学校さんのほうへ自分の仕事の関係で回らせていただいて、6月にある教育委員訪問とはまた違って、多分私が教育委員ということが多分存じ上げない

方もいらっしゃると思うので、そんな目で子供たちの様子なんかを見せていただいて、とてもどこの学校も元気で、どこも挨拶はやっぱりちゃんとしてくれます。おはようございますとか、あと学校さんによっては、お疲れさまですと言う子供たちもいて、先生方の御指導の下かなと思うんですけど、先生がお疲れさまですと言ってくださる学校は子供たちもお疲れさまですと返してくださるので、本当にありがたいなと思います。

私の会社が旭小学校さん校区の子たちが帰っていくんですけど、外でちょっと作業をしても、子供たちが一応挨拶をして帰っていつてくれるので、前、学校では挨拶ができるんだけど、外ではなかなか挨拶ができないというようなことを伊藤委員もおっしゃっていたような気がするんですけど、そういった中で、旭小学校の子たちは挨拶をこんなにちはだったりとか、挨拶を僕が先にするのではなくて、子供のほうから先に言ってくれるので、ああ、ちゃんと挨拶ができていたんだなと思って感心しております。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

梶田委員の仕事における訪問というのは、素の子供たちの、先生方の姿なんでしょうね。お疲れさまですという言葉って本当にすてきな言葉で、感謝の気持ち、ふだんから思っているから出ることであって、そういった先生方の感謝の気持ちを持った仕事ぶりが子供たちにも自然に伝わって、感謝の気持ちを持つことの大切さを学んでいるんだろうなということを思って、またそういった教育委員さんからの報告がありましたということを校長会や教頭会等で広めていくのも大切なことなあとということも思いました。ありがとうございました。

○ **教育委員（小栗照代君）** おはようございます。お願いします。

今日ですけれども、こちらにお伺いする前に、読み聞かせのボランティアで東明小学校にまた行ってまいりまして……。

○ **教育長（堀部好彦君）** 今日ですか。ありがとうございます。

○ **教育委員（小栗照代君）** はい。それで校長先生ともお話をさせていただいたんですけど、子供たちも今は学級閉鎖になることもなく、元気に寒いですけど来ていますよというようなことで、にこやかにお話をしてくださいました。

子供たちですけれども、今日は3年生のクラスに行ったんですが、担任の先生がちょっと怖そうな顔で見えいらっしゃったんですが、面白いお話を今日は読みまして、子供たちも元気に大笑いしてくれて、先生も一緒になって笑ってくださって、とても明るい雰囲気でも元気をもらって帰ってまいりました。きっと一日元気よくまた過ごしてくれるんじゃないかなと思います。

それから、東可児中学校の校長先生とお話をさせていただいたんですけど、今学校どうですかというお話をしましたら、とても平和ですとおっしゃられて、平和ならいいですねなんていうお話をしたんですけども。

○ **教育長（堀部好彦君）** 本当はどうかな。

○ **教育委員（小栗照代君）** 校長先生のあのイメージでおっしゃいました。

今はインフルエンザで学級閉鎖もあったので、急に何か突然多数の発熱の方が出たのでびっくりしたんですけど、ほかのクラスにもうつっていないので、このまま維持してくれるといいなというお話もされていらっしゃいました。先生にもうつってませ

んというようなお話であったりとか、あとコロナの先生がいらっしゃるけれども、校内からの感染ではないので、それも広がらないでいけるだろうというようなことをおっしゃっていました。

それから、3年生と語る会というのが、3年生を送る会を行って、今回は縦割りで開催をしたということで、3年生が自分史を後輩たちに語るという、こういうことをやると成功したよとか、こういうことをやると失敗したよというようなことを、それぞれのみんなの失敗談とかを話をして、後輩たちが一生懸命メモを取っていったと。

○ **教育長（堀部好彦君）** 全員が。

○ **教育委員（小栗照代君）** そうです。そうやっておっしゃっていました。

それで、その3年間を横軸で1年、2年、3年、縦にゼロから100%にして、1年生入ってから2年生、3年生まで、どういった自分の波があったかというようなこともグラフにして発表をしたということで、2年ぶりに発表会だったということをおっしゃって、教えていただきました。

それから私ごとですが、外国籍の大学生の女性の方とお話する機会がちょうどあったんですけども、その方とお話をしていたんですけど、小学校5年生のときにこちらのほうにいらっしゃって、全く日本語ができなかったということで、御自身としては明るくて活発な性格なんですけれども、ずうっとおとなしくてしていたと。ただ、このままではもういけないと自分で思って、何をしたら自分として生かせるんだろうというのを小学校で思ったそうなんです。それで、日本人の友達を積極的につくろうと、それを自分の目標にしようと思って一生懸命とにかくつくったと。そうしたら、日本語がだんだん話せるようになってきたということをおっしゃっていただきました。

ただ、日本語を読むということがすごい不得意で、授業中でも音読、一人ずつ読みなさいといったときでもなかなか読めなかった。それが、中学校に入って朝読書をするようになって、中3には日本語もすらすらと読めるようになってきて大変よかったというようにお話をしていただきました。今大学生なんですけど、今まで一番頑張ったことはというお話をしたら、日本人の友達をつくることとにかく自分は力を入れて、今ここまで来られて、これで大学を卒業できますというようにお話をしていただきました。

日本に言葉が分からないでいらっしゃっているのは大変だろうなというのは、何となく分かってはいるんですけども、こういったお話を直接やっぱりお伺いすると、外国籍の子供たちというのは日本の子たちとは全く違う、そういった苦勞をしながら、この地で、可児で頑張ってくれているんだなあということと、それから可児市の未来を担う外国籍の子供たちのためにも、しっかりと自立できるように育んでいきたいなというのを改めて思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

まずは読み聞かせの活動を続けていただきまして、本当にお忙しいところありがとうございます。

それから中学校3年生の取組、縦割りで自分史を語るという、これもすばらしい取組やなあ、どんな意味があるのかなあなんて改めて考えたんだけど、これはやっぱり自分に身についた、3年生からすれば自分の過去を振り返る。3年間を振り返ることで、自分に身についた資質・能力を自覚する場だろうなあ。それを私たちはキャリア・パ

スポーツという、時々ここで話題になる「笑顔の“もと”」を自覚するための手段として、キャリア・パスポートを大切にしましょうと言っているんだけど、その中学校の縦割りの自分史の取組は、まさにキャリア・パスポートの取組だろうなあ、自覚の取組だろうなあということを思いました。

それから、もう一つは外国籍のその学生さんのお話で、素晴らしいですね。私たちが外国人の方々から学ぶというのもいろいろあると思います。例えば、私こんなことを知って子供たちに伝えたことがあったんですけども、今渡南小学校の校長のときに、そこに来てくださっていた通訳の女性の方の昔話をいろいろ聞いていたことがあって、日本に来た頃のお話をね。その方は、常に日本語の辞書を、今だったらそういう辞書に代わるものっていろいろあるんだろうけれど、分厚い辞書を持ち歩いて生活していた。これってどうやって言うんだろう、これってどうやって書くんだろう、そういった姿勢で日本に暮らし始めた頃にそうやって学ぼうとしておられた。素晴らしいなあと思って、子供たちや職員に紹介をしたことがあったんですけども、友達をつくりたいという、日本人の友達をつくることを一番大切にしてきたんやね。その学生さんからも学ぶところは多いなあということで、可見市はそういった多文化共生の中で、日本人が学んでいくことというのはいっぱいあるような気がしました。ありがとうございました。

議事

○ **教育長（堀部好彦君）** では、議事に入りたいと思います。

○ **事務局長（飯田晋司君）** 議案書を御覧ください。

表紙の裏面の目次のとおり、本日は議案が3件です。

議案第2号 教育に関する予算の意見について（令和6年度可見市一般会計予算）、議案第3号 教育に関する予算の意見について（令和5年度可見市一般会計補正予算（第11号））、議案第4号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上3件についてよろしくをお願いします。

○ **教育長（堀部好彦君）** 本日の議事の議案第2号 教育に関する予算の意見について（令和6年度可見市一般会計予算）、議案第3号 教育に関する予算の意見について（令和5年度可見市一般会計補正予算（第11号））、議案第4号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について及び児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録については、意思形成に関わる案件、個人情報やプライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この4件については非公開とします。

報告事項

○ **教育長（堀部好彦君）** それでは、報告事項、いじめ相談受付状況についてを議題といたします。

○ **子育て支援課専門対策監（牛江明美君）** おはようございます。よろしくお願いたします。

令和5年度いじめ等に関する相談状況について説明させていただきます。

初めに、皆さん御存じかと思いますが、いじめ防止専門委員会は、通報や相談があったいじめの解決を図るために必要な調査、審査、関係機関との調整、また関係者への助言、支援などを行っている市長部局の機関です。

資料、令和5年度いじめに関する相談の状況等について、資料1になります。

4月から1月のいじめの相談受付状況のほうを配付させていただいております。ございますでしょうか。

それでは、1番、相談受付の状況について。

受付状況の資料の上のほうの表を御覧ください。種類別・年齢別統計という資料になります。

左側の相談種別は、大きくいじめ、その他とし、内容をより区分してあります。右から3列目、計の欄には今年度1月までの受付件数を記載してあります。種類別としては、いじめが24件、その他が2件の合計26件の受付をしました。

いじめの内訳は、物理的ないじめとしては、嫌なことをされる等が9件で多くなっています。また、心理的いじめとしては、悪口・からかいが7件で多くなっています。その下のその他の欄ではいじめ以外の相談で、不登校はゼロ、その他は2件、その2件はいじめの前段階ということで、いじめとしては認知されていないが、いじめになり得る可能性が高い事案として上げております。

年齢別の内訳では、小学校3年生が7件、次いで小学校2年生が6件、小学校5年生が4件と続いています。

次に、下の表のほうを御覧ください。経路別統計という資料です。

左側の問題別は、上の表の相談種類別と同じ、いじめとその他に区分しています。表の右3列は、計、終結、継続中のケース、各欄2段書きで上段は今年度の件数、下段、括弧書きは前年度からの継続の件数が記載されており、上段と下段の数を合計した件数に対応しております。

一番右の欄にあるように、1月末現在対応しているケースは、今年度のいじめのケースが21件、その他のケースが2件、終結が3件あります。前年度からの継続のいじめのケースは10件、前年度からの継続のその他ケースが9件で、合計42件のケースに対応しています。

経路別の内訳では、学校との共有ケースが11件、子供本人からの相談が8件、母親からの相談が3件と続いています。子供本人からの相談は8件中、手紙が6件、インターネット、電話が1件ずつです。

相談内容としましては、資料にあるとおりですが、何もしていないのに友達に「あほ」と言われたり、たたかれたりするとか、名前をもじって嫌なことを言われたというようなことがありました。また、先ほどの小学校3年生からの相談が7件ありましたが、そのうち6件が本人からの相談でした。

主な事案内容について説明します。

学校との共有ケースや保護者からの相談の内容としては、資料にあるとおりですけれども、学校の困り感から共有ケースになっている事案で、発達の特徴が背景にあるいじめの事案というものがあります。コミュニケーションが苦手、無意識にきつい言葉を

言ってしまいトラブルになるが、先生の指示が入らず行動修正ができない、何度も繰り返してしまったり、他者の言葉や行動に対して過敏で、きつい言葉を言われ学校を休みがちになった。これは、周りの子がこの子の行動に対して教えてあげる、注意をするという気持ちで接していたが、過敏できつい言葉と捉えてしまうというような経緯があります。また、感情のコントロールができず、何に対してもヒステリックで毎日いらいら感でいっぱいであるという発達特性のある子をいじめの前段階の共有ケースとして、人との関わり方やコミュニケーションなどを学んで、いじめの予防や重大化の防止につなげていくよう見守っている例もあります。

保護者からの相談としては、突然股間を蹴られたという暴力事案や、加害者のカードがなくなったことを被害者のせいにされ、加害者を含む複数の男子から嫌なことを言われたり無視されたりするという仲間外れ、無視されたという事案があります。保護者から同意を得られたことで学校と情報共有をし、委員会が保護者の思いを伝えながら対応した事例です。

それでは、裏面の2番のほうに行きます。

学校と当委員会との共有ケースということで説明します。

今までも事案の説明で学校との共有ケースという言葉が出てきておりますが、これは令和2年度から取り組んでおり、学校からの相談や定期学校訪問での情報提供の事案などを対象に学校と協議して決めています。共有ケースの児童・生徒の学校に専門委員会が訪問し、クラスで活動の様子を参観したり、学校と意見交換したりしています。また、専門委員会において対応に関する助言などを協議し、学校のほうにフィードバックをできるようにしています。

3番、学校訪問についてです。

いじめ防止専門委員会事務局による定期学校訪問を公立小・中学校に年5回、私立小・中学校に年3回訪問しています。学校生活や個別の事案に関する情報共有や意見交換などを行っています。

また、委員の訪問については、先ほどもお話ししましたように、共有ケースのある学校に伺うとともに、今年度は共有ケースのない学校にも委員が定期学校訪問に同行させていただいた学校もありました。その中で、発達特性や気になる行動のある児童・生徒の参観をし、意見交換や助言などを行いました。

最後に、4番の子供からの相談の促進です。

子供本人からの相談しやすい環境をつくるということで、学校教育課と協力して、これまでSOSの出し方教育や、昨年度の終わり頃には児童・生徒の1人1台のタブレットを開くたびに画面が見られるように、画面に困り事・悩み事の相談先を貼り付けていただきました。市のいじめ防止のウェブページにリンクしますので、そこからアクセスして相談できるようにしております。

また、いじめ防止に関するパンフレットを、学校に協力いただいて年3回に分けて配付しています。パンフレットに附属されている手紙での相談は、今年度は何通か届きました。学校からも子供たちにいじめについて指導や問いかけがされていることに大変ありがたく感じております。インターネットでの相談は学校や名前が特定できず、今は聞いてほしいだけ、学校には知らせないでと対応ができず、一方通行でもどかしいところ

もありますけれども、手紙を含めて発信できる相談窓口を啓発できていることを実感しております。今後も教育委員会や学校と連携をしながら対応をしてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上、令和5年度いじめ等に関する相談状況の報告を終わります。ありがとうございました。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございました。

大変丁寧に説明をしていただきましたが、ただいまの御説明につきまして御意見、御質問ありますでしょうか。

○ **教育委員（長井知子君）** とても詳しくありがとうございました。

ここで思ったのは、子供たちからのSOSは思った以上に多いなあということだったので、現場でSOSの出し方教育というのが浸透しているんだなあというのを思いました。

あと、子供たちに伝えていきたいのは、面と向かってだと言えないけれども、文字にすると意外と人というのは結構厳しいことも書けちゃったりだとかして、思った以上に人を傷つけてしまうということがあるので、文字に何か、例えばLINEだとか、文字で伝えたいときは、そういったところもちょっと気をつけて行ってほしいなあ、大人も私たちも含めてですが思いました。

あと、名前をもじって嫌なことを言われたって、ああそうだよなあと思ったんですけど、子供たちはまだまだ全然そんなことは分からないんですけど、名前というのは、子供が生まれたときに親がその子に対して思いを込めてつけた名前なので、そういったことも子供たちに伝えていけたらいいなあというのを思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございました。

軽はずみな言動を慎むということは本当に言い続けていくことが大切だし、そのためには、例えば名前の話なんだろうなと思ったんだけど、親の愛情、親の願いが籠もっているんだという、それをそういった意味を知らせていくことで軽はずみな言動を慎むという姿勢を身につけさせるということも大切だなと思いました。

ほかの委員さん、どうでしょうか。

〔挙手する者なし〕

じゃあ、私から2点ほど。

まずはお礼なんですけれども、本当に学校と保護者、子供たちとの橋渡しということで、丁寧な取組をずっと続けてくださっていることに感謝申し上げます。これは、この専門委員会は、設立当初、全国的にも注目をされた組織で大変ありがたいんですけれども、これが始まったときから、すぐにやっぱり形骸化というのは、何でもそうなんだけど、新しい取組って始まると思うんですよ。それが形骸化されていない。このすばらしさというのを、危機感を持ってやってくださっていることに感謝申し上げます。だから、長井委員も言うておられましたけれども、SOSを発信する場として子供たちが認識しているということなんですよね。これは形骸化していない証拠ですよ。何か聞いたことあるけどで済んでしまわない、本当に助けてもらえるんだという気持ちを持つるところはすばらしいなあというふうに思っております。これがまずお礼です。

2点目なんですけど、意見なのか質問なのかちょっとあれなんですけど、共有ケースとい

うような言葉で取組の一端をお話をしていただいて、これも大変ありがたいと思っています。そういう中で、例えば教育委員会としては、いじめに対応する対応の仕方について、専門委員会の方々と共に教諭の指導の在り方について啓発していくことが大切かなあというふうに思っています。生徒指導の担当がおりますので、こういった共有ケースで学校が考えるべき点を教えていただくと、またこちらの教育委員会としての指導にも生かされていくんじゃないかなあなんていうことも思いました。

同時に、保護者の方々のスタンスなんですけれども、やはりいじめは、例えば学校で起こったいじめについて、解決するのは学校が主体となるべきだろうというのか、当然そう思うんですけれども、そのときに我が子、いじめた側の子の親さん、いじめられた側の親さんが、そのいじめを共になって解決していこうという姿勢があると大変ありがたいなあなんていうことをいつも思っているんですけれども、どうなんでしょうか。そういった双方の保護者の姿勢、学校と協力してとか、いじめ防止委員会の方々と協力してということで、共に子供たちを育てていくというようなことは、いろんな事例から感じられるようなことはあるのでしょうか。

- **子育て支援課専門対策監（牛江明美君）** 相談を受けて、やっぱりこちらは相談される親さんの思いをまずは第一に聞きまして、一緒に考えていきたいと思いますというのとは、まずはその親さんとの一緒に考えていきたいと思いますというものはあるんですけれども、いざ学校に話してもいいよという了承を得られた場合、学校に行くと、そちらだけの意見を聞いていると違う部分がやっぱり出てきますので、そういう部分を受け入れて、またそちらの親さんにフィードバックしたりとか、そういうような形で、加害者さんの親のほうに直接は私たちではできないんですけれども、学校を通じながらお互いの気持ちを近づけるといことは感じることはあります。

でも、どうしても親さんがそこを学校に話してほしくないと言われてしまうと、それができないというのが、どうしても私たちも動きづらいというところは感じております。

- **教育長（堀部好彦君）** そういう事例もあるでしょうね。
- **子育て支援課専門対策監（牛江明美君）** はい。
- **教育長（堀部好彦君）** いろんな事例がある中で、関係者が情報共有しながら、みんなで子供を育てていこう、いじめられた側もいじめた子もという姿勢でやっていただけること、本当にありがとうございます。

それに関わって、これも質問になってしまうかもしれませんが、1番、相談受付の状況、この資料の表のほうですが、1番の③主な事案内容の発達の特性が背景にある事案とあって、これは本当に可児市だけではなくて、全国的に課題となっているところかと思うんですけれども、例えば1つ目と2つ目の黒ちよぼのところ、コミュニケーションが苦手が無意識にきつい言葉を言ってしまったりとか、他者の言葉や行動に対して過敏で云々と、これは発達の特性だと思われませんが、そういった特性が我が子にあって、それが原因でいじめになっちゃっているなあ、いじめてしまったというふうのうちの子がなっているんだなという保護者の理解というのはどうなんでしょうか。

- **子育て支援課子育て応援係長（石丸 聡君）** ケースによってもだと思ってしまうんですけれども、やっぱりそういういじめのような対人関係のトラブルがあって、うちの子はやっぱりそういう特性が、傾向があるんだなというふうを受け止められる保護者もい

れば、やっぱりすぐには受け止められない保護者もいて、下手すると、うちの子はそんなに悪くないんじゃないかというような認識をされる方もあるので、本当にそういうところは、発達の特徴があるよと真正面から言うことは難しいと思うので、こちらの支援する側も、どういうふうにその辺の理解をしてもらうかというのは難しい課題だというふうに思います。

- **教育長（堀部好彦君）** 本当に学校現場もそういうふうに直面をしているということなんですけれども、これは本当に難しい問題なんですけど、丁寧に丁寧に保護者の気持ちを酌み取りながらやってくださっていることに本当に感謝申し上げます。

私からは以上です。

ほかどうでしょうか。

よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

では、この報告を踏まえて、私たちの取組も改めて見直していきたいなということも思っております。ありがとうございました。

- **子育て支援課専門対策監（牛江明美君）** ありがとうございました。
- **子育て支援課子育て応援係長（石丸 聡君）** ありがとうございました。

各課所管事項

- **教育長（堀部好彦君）** 続いて、各課所管事項です。
- **事務局長（飯田晋司君）** 私からは、2点お伝えをさせていただきたいと思います。

1点目、市議会の第1回定例会です。2月27日に開会、3月22日に閉会する予定です。なお、本日の議案第2号と第3号は予算案として上程をいたします。

2点目です。先ほど伊藤委員もお話をされました。また、梶田委員も以前この会議の場で触れられたんですけれども、今渡南小学校のホタルの活動についてお話をさせていただきます。

今渡南小学校では、三十数年前からホタルの活動が行われてきたんですけれども、現場のいまみ川の水質が変わってしまったことによって現場の環境を保つことが難しくなったことや、長く活動に関わってこられた地元の団体の中心メンバーの方が引退されたということなどもあって、活動を閉じることになったということです。教育委員会事務局に対しましては、事前に校長先生から御相談をいただいて、どのように最後をまとめるかというか、終結させるかということも助言などをさせていただいたんですけれども、2月7日にPTAの主催によるホタル感謝の会というのを学校で開催して区切りをつけられたということです。その会の様子とか経緯などを簡単にお伝えさせていただきます。

このホタル感謝の会は、学校外からずっと協力していただいていたそよかぜの会の中心メンバーの方、それから学校運営協議会の役員の方などに参加をいただいたということです。

まず、そよかぜの会のメンバーの方から、ホタルの育成の経緯や、なぜ一区切りつけることになったかについての話があって、続いて4年生児童が総合的な学習の中での可児川の水質調査や、そこから考えたことなどを発表したという場を設けたということで

す。また、それに続いて児童の環境委員会がホタルの育成に関わってきたことの説明とか、指導していただいたそよかぜの会の方に感謝状を贈ったということで、それに続いて環境宣言としてホタル育成活動が30年続いた中で大切にしてきた思いを引き継いで、美しい環境を守るために自分たちでできることを考えて実行していきたいということを誓ったということです。

会の様子は各教室に配信をされたと。また、新聞社への投げ込みを行ったほか、先ほどお話があったように、ケーブルテレビからの取材も入って、昨日から放送されております。ちなみに、「CTKタイムズ かにみた!」という番組の「週刊CTKフラッシュニュース」というコーナーで放映されていまして、1日4回ほどの放送がありますので、よければまた御覧になってください。

また、この会に先立って、地域への説明として学校だよりもPTA会長からの説明文を掲載したほか、前日には児童向けに校長先生が全校朝会で30年の歩みをプレゼンして説明をしたということです。

以上、感謝の会の様子なんですけれども、これは私が感じたことなんですけど、学校やPTAが子供たちや地域の方々と一緒になって大変丁寧に動いていただいたなど実感しております。何か活動を始めること、それからそれを継続していくことというのは大変なことで、とても尊いことだなあと思うんですけれども、長く続けてきたことをしっかり評価して、その上で周りの理解を得て閉じるということも大変難しいことだなあと感じております。

先ほど伊藤さんのお話にもあったんですけれども、子供たちが、これから美しい環境を守るために自分たちで何ができるかをみんなで考えて実行していこうという思いを持って、共有していってくれるという希望が見えたなどというよい締めくくりになったなど感じております。

私からは以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **教育総務課長（水野 修君）** それでは、私のほうから御報告をさせていただきます。

これまでも報告をしておりました「笑顔の“もと”」を育む第3期可児市教育振興基本計画の進捗についてでございます。

1月10日から1月31日までパブリックコメントを行いまして、3人の方から4件の御提案がございました。中身をこちらのほうで検討させていただきまして、既に案に盛り込まれているようなことが2つばかり、それから御意見としてお伺いしたものが2つということで、中身について大きく変わることはないということで、この前にもお話をさせていただきました内容のとおり、この後、策定委員会に再度お諮りをさせていただきます。これは書面でやるつもりでおりますが、会議で了承を受けた後、議会のほうにも、教育福祉委員会で再度パブリックコメントの状況を報告させていただいた上で、ほぼ出来上がりの形にさせていただいた上で3月の教育委員会会議に最終的に諮らせていただきまして、4月からというふうな形になってまいりますので、またよろしくお願いをいたします。

それからもう一つですが、お手元の資料の中に西濃学園の視察研修報告があるかと思

います。先ほども教育長から、それから長井委員から御報告をいただいておりますが、我々のほうも報告書という形で作成をさせていただきましたので、ぜひ御一読、目を通していただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

私のほうからは以上でございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **学校教育課長（佐野政紀君）** 1月19日以降、学校に関わる動きをお伝えします。

インフルエンザ及びコロナ発熱などによる学級閉鎖ですが、市内16校中12校、28学級で閉鎖をしています。1月19日以降、閉鎖になっていない4校は東明小学校、兼山小学校、中部中学校、広陵中学校、この4校が閉鎖にはなっていません。現在閉鎖している学級は6学級あります。引き続き対応していく思いであります。

希死念慮の報告が上がってきた児童・生徒については、毎回報告させていただいておりますけれども、大切にしていますのは、担当指導主事が可茂教育事務所に報告をするとともに、各学校の生徒指導主事と連絡を重ね、様子を確認し続けています。主な希死念慮につきましては、後ほど担当から話がありますけれども、勉強が嫌でテストを受けたくない、親との関係でストレスを抱えるなど様々です。

卒業式についてです。3月8日に卒業式を迎える市内5校の中学校についてです。今年度は、合唱は全ての学校で行います。在校生の参列は、代表のみの学校が多いです。保護者は2名までの参加という学校が多いです。制限のない中学校もあります。来賓につきましては、議員さんや学校運営協議会の方、評議員さんの方がお見えになります。学校の規模によって対応も異なりますけれども、入退場時や卒業証書の授与、また体育館や各教室へ保護者等の入場は、コロナ禍前の対応が多くなっているかなというふうに捉えております。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** では、別冊の教育研究所よりの冊子を御覧ください。

今回は2点お願いいたします。

まず1点目です。2ページ下段から3ページにかけてを御覧ください。

1月末に行いました可児市初任者研修についての報告です。今回は、道徳の授業づくりと教員のメンタルヘルスに関わっての研修を行いました。今年度4月3日でしたが、教育委員の皆様にも御参加いただいて激励をいただきました可児市の初任者22名、事務職員を合わせると23名ですが、全員そろって1年間の初任研を終えようとしております。一人も欠けることなくということです。これは大変素晴らしいことで、初任者としての頑張りはもちろんですが、各学校の校長先生をはじめとする周りの先生方の支えがあってこそです。今回の研修の道徳やメンタルヘルスの内容と併せまして、初任者には1年間を振り返ってということで感想を書いてもらいましたので、載せてありますので、また御一読いただければと思います。

2点目です。3ページ下段から4ページを御覧ください。

「笑顔の“もと”」重点事業の進捗として、今回は2月1日に子育て支援課とスマイリングルームとで連携して行った赤ちゃん触れ合い体験について紹介をさせていただきます。

この体験活動の対象ですが、中学生でした。最初、参加募集のチラシを見ましたスマイリングルームの中学生は、赤ちゃんちょっと怖いなあ、ちょっと苦手かもしれないなあといった感じで、積極的に参加の意思を示したのは2人だけでした。当日までには7人に増えたのですが、その中には、見ているだけなら参加してもいいよなんて、ちょっと消極的な生徒もいました。ですが、写真を見ていただくと分かるように、最初赤ちゃんの人形を抱いたり、また妊婦の大変さ、身につけて、ちょっと不自由という大変さを体験したり、実際に赤ちゃんを見たりしているうちにどんどん興味が高まってまいりまして、男の子も女の子も実際に赤ちゃんをだっこしたり、おむつを替えたりするというようなことが体験できました。

感想を4ページのほうに載せましたが、赤ちゃんの生命力とか、命の重み、温かさを実感したり、赤ちゃんがいる人に対してこれから優しく接していきたいなあと考える生徒もいたようです。また、参加者全員が参加してよかった、もっと赤ちゃんと一緒にいたい、帰りたくないというような前向きな思いを持つことができました。

昨日、スマイリングルーム運営委員会を行いました。このスマイリングルームの子供たち、学校には足が向いていないのだけれども、様々な体験を通して笑顔になって社会的自立に向かっています。この子たちの「笑顔の“もと”」を、子供たちの側に立って明らかにしていくという視点をこれから持ちながら、今後も運営を進めていきたいと考えております。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **学校給食センター所長（水野伸治君）** 私のほうからは3点御報告をさせていただきます。

まず1つ目です。小栗委員も委員長をお務めいただいております給食センターの運営委員会でございますが、今回は書面による開催とさせていただきます。令和6年度の事業ですとか、納入業者の決定等につきまして全て御承認をいただきました。

2点目です。学校給食週間についてでございます。

今年度の取組といたしましては、1月22日から26日までの期間において、全校に可児市産や岐阜県産の食材をふんだんに取り入れた可児野菜のシチューですとか、ネギ塩豚丼等の特別献立を提供させていただきました。また、最終日の26日には、3年間コロナで実施できておりませんでした触れ合い給食を、今回は桜ヶ丘小学校で開催方法を十分調整した上で実施をさせていただきました。栄養教諭が、市内で生産されております里芋やお米、ネギ、みそなどの生産の様子などを取材してまいりまして、生産者の顔写真の入った紹介資料を提示したり、また最終日にはJAめぐみの方が桜ヶ丘小学校のほうへ来ていただきまして、オンラインで大豆の生産などについて講義をしていただきました。以前のように会食とはいきませんでした。給食週間を通して地場産物への理解を深めることができたのではないかと考えております。

3点目です。本日、お手元のほうに2月の献立表をお配りさせていただいておりますが、2月6日と9日、2日間ですが、児童・生徒が考えました献立を給食として提供させていただきます。献立表の左上とか右上のほうに少し説明をさせていただいておりますけど、2月6日は「中部中まなび献立の日」です。中部中学校1年生の家庭科の授業で、地産地消と食品ロスをテーマにいたしまして生徒自身で献立を考えてもらいまし

て、全48グループの中から選ばれました献立を学校給食として全学校に提供いたしました。可児の手作りみそやネギを使いまして、岐阜県の郷土料理「けいちゃん」によって、いつもは残しの多い御飯が進むというコンセプトでもって考えられた作品でございます。

続いて、9日の「がんばれかにつこ！献立」の日には、里芋レンコンのハンバーグを提供いたしました。このハンバーグは、岐阜県学校給食会が主催いたします「私が考えた学校給食メニューコンクール」におきまして、今渡南小学校5年生の児童が応募総数約4,200点の中から、主菜部門でアイデア賞を受賞いたしましたメニューでございます。可児市特産の里芋と食感のあるレンコンを入れたところで、これをアピールポイントとしております。当然これは市販品ではございませんので、給食用に特注で8,800枚作ってもらいまして提供させていただいております。当日、栄養教諭が給食の時間に今渡南小学校のほうへ訪問させていただきまして、学校の給食の放送の中で、この子の名前ですとか、コメント等を紹介させていただいております。それを聞くと、その子のクラスも当然ですけども、隣のクラスまでも拍手で沸いておったそうです。

この2つの献立につきましては、とてもおいしくて好評だったという様子が給食日誌にも書いてございました。

私のほうからは以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

ただいまの報告につきまして、御質問、御意見等ございますでしょうか。

○ **教育委員（長井知子君）** スマイルグループの行事の「ドキドキ赤ちゃんふれあい体験」とありますけど、これは毎年この行事の内容は変わるんですか。今回がこの赤ちゃん体験なんですか。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** 子育て支援課が中心になって、コロナ前まではずうっとやってきたことなんですけれども、ちょっとコロナでなくなっておりまして、今年また久しぶりにというか、始まったんですけれども、そこでスマイルグループと一緒にやろうかということを発表いただいて、今年やったものです。なので、例年ずうっとやってきているという形にはなるんです。

これ以外のことで、スマイルグループと子育て支援課のほう、今年結構連携をしております、市長部局のほうでも不登校対策を頑張るってやろうということで、特に保護者支援のほうに力を入れてくださっていて、こちらは子供のほうというあたりで、そういう連携も深めていて、ちょっとヨガをやりながら、子育てとか不登校対策で悩んでみえる方がmanoでちょっとやる。そこに、ちょっとスマイルグループの職員が行ったりだとか、そういう連携を深めておりましたので、その一環ということではないですけど、これもちょっと一緒にやりませんかということでお声がけいただいたものです。

○ **教育委員（長井知子君）** 分かりました。いろいろ保護者の方との連携だとかされていて、すごいなあと思いました。

先ほど三宅先生が言われたように、学校には行けないけど、こういうのには行けるとい、先生方は、この子にとってどこが突破口なんだろうというのをいつも探していると思うんですけど、何かこうやってやることで、いいなあと思いました。

2人だけだと言われましたけど、やっぱり命が生まれるというのは、人間って生まれてずうっとしているといろいろ求めちゃうんですけど、勉強できなきゃいけないとか、

こうしなきゃいけない、これができなきゃいけないと思いますけど、子供たちには、本当に生まれてきたことが、生まれてきたことだけですばらしいという、学校現場でも伝えていращやるとは思いますけど、本当にそういうレベルなんだよという、奇跡なんだよということをやっぱり伝えていってあげたいなあと思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ほか、どうでしょうか。

〔挙手する者なし〕

では、私からは3点、お礼も含めてなんですが、まず事務局長からのお話で、今渡南小学校のホタル活動の締めのことなんですが、局長言われたとおりで、本当に長年ずっと続けられてきた中で培われたものというのはいっぱいあるんだけど、それを閉じるというのは本当に大変なことで、その大変なことを本当に丁寧にやっていただけたなあということを書いて、関係の方々には感謝です。

今後、教育委員会からも感謝の気持ちをお伝えするというので、校長先生に声をかけていただいて、このホタル活動の発足当初から頑張ってくださっている方々、そよかぜの会の方々と校長先生に来ていただいて、私やら局長やら課長と懇談をするというようなことも考えておりますので、御承知おきください。またそこを来月報告ができるんじゃないかなあなんていうことも思っています。これが1点目。

2点目ですが、今、長井委員も話題にしてくださった赤ちゃんとの交流体験なんだけど、これはこれまでも中高生向けにやられていたものを今回スマイリングルームの子たちにもということをやったんですけれども、スマイリングルームに通う子たち、人間関係づくりがなかなか苦手で自己肯定感も低いような子たちが多いかと思うんですけれども、そういった子たちがこういった体験で引き出されるもの、自分見詰めをして引き出されるものというのはいっぱいあるなあ、貴重な体験を提供していただいたなあなんていうことを思っています。最初から手を挙げた子が2名で、あとは勧められて数名の子ということで、何人、11人……。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** 最終的には7名。

○ **教育長（堀部好彦君）** 最終的には7名ね。7名の子が体験をしてくれたんだけど、この資料の4ページ、とじてある一番最後のページの感想を見てください。

最初の黒ちよぼの中1の子の3行目、命の重みを感じたよという記載だとか、それから3人目、中2の子の真ん中の辺り、3人目の黒ちよぼね。だから、赤ちゃんがいる人にもっと優しくしようと思ったよなんて書いてくださっている。こういった赤ちゃんと体験をすることで、自己肯定感が低い子、そして人との関わりが苦手な子がこんなことを書くんですよ。やっぱり引き出されるものってあるなあということを書いて、改めてこの値打ちを感じました。ありがとうございます。これが2つ目。

3点目ですが、学校給食センターの取組、また本当にいろんな取組、すばらしい食育をやってくださっているなあということをしていろいろ感じています。運営委員会でそういったことのお礼をお伝えしたかったんだけど、今回通達することができなくて大変残念でしたけれども、今後も食育の取組、すばらしいと思っておりますので、可児市の取組。ぜひ継続してやっていただけるとありがたいなあというふうに思っております。以上です。

ほか、よろしいでしょうか。

[挙手する者なし]

委員からの提案協議事項

- **教育長（堀部好彦君）** では、その他御質問がないようですので、次に教育委員からの提案協議事項についてを議題といたします。

何かございますでしょうか。

よろしいですか。

[挙手する者なし]

その他

- **教育長（堀部好彦君）** では、次にその他に行きたいと思います。

次回の日程等です。

- **教育総務課長（水野 修君）** それでは、次回会議の日程でございます。

定例会につきましましては3月26日、ちょっと遅くなりますが、火曜日の午前9時からということでお願いをしたいと思います。場所は市役所の5階第1委員会室になりますので、お願いをいたします。

それからもう一つ、この定例会の前なんですけど、臨時会を開催したいと思いますので、お願いします。日程は3月1日金曜日の午前10時から、場所は教育長室で行いますので、よろしくをお願いをいたします。

なお、4月の日程につきましましては、また今調整をさせていただきまして、また後日御報告させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。よろしくをお願いをいたします。

では、このまま続けてよろしいでしょうか。

[「はい」の声あり]

すみません、よろしくをお願いします。

引き続き会議を続けます。

(以下非公開)

(以上非公開)

閉会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** では、これにて教育委員会会議を閉会します。お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会 午前11時11分